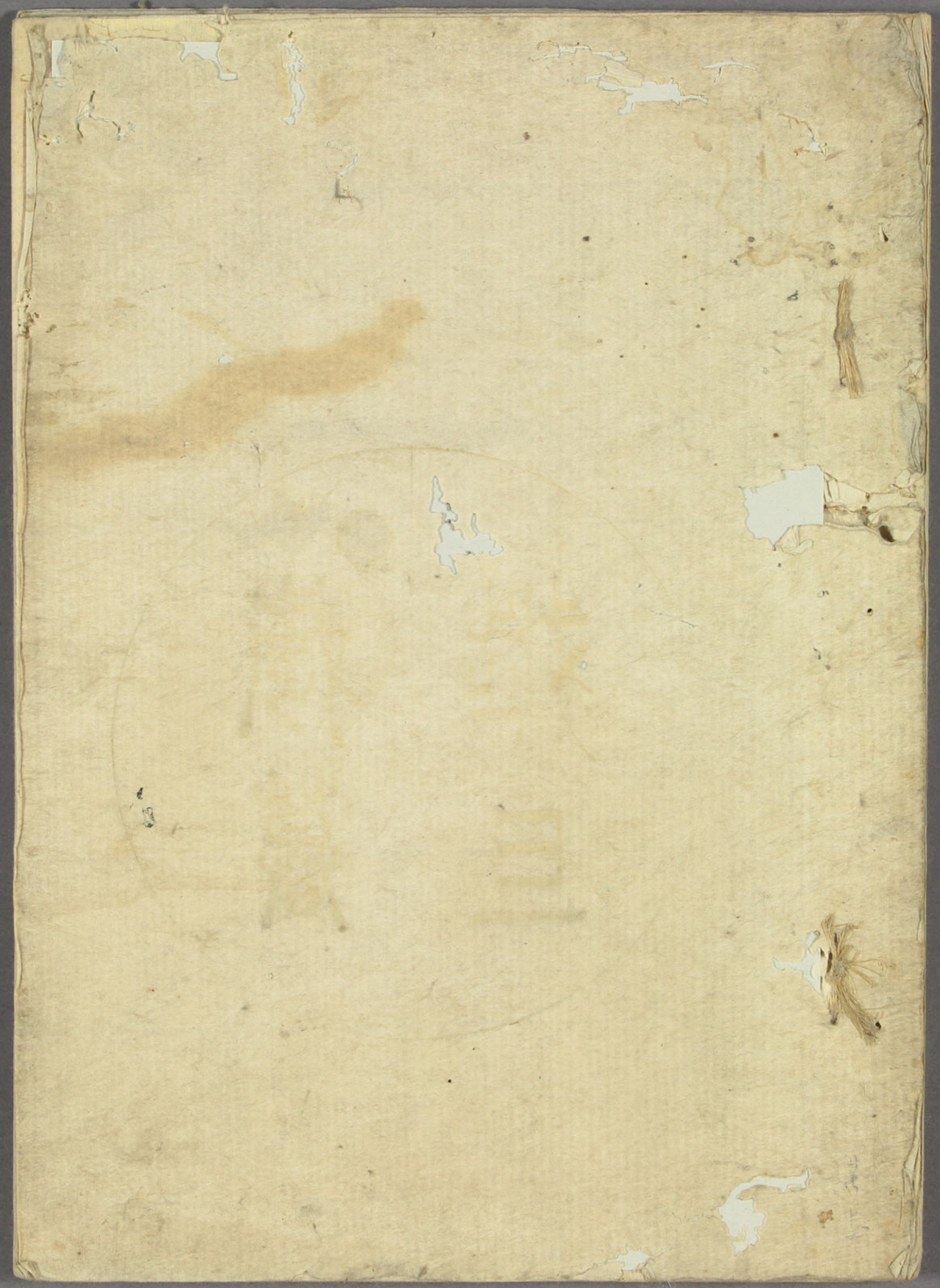


天明一年
癸卯歳且
雪中庵
蓼太

士寅歳暮

歸るさも嫁捨島　仝

伊丹市立図書館

晩冬

乾坤俗界の塵うき一筆こゝ百家言の
自合て所うの風志るし先とりる我
世月の淀よりめくるゝきこゝのに
つゝこゝ雪りの彩う潮山手宮点乃
ものを掛て伝稜せしゝ人地其稜ハ
蝶ちまもや志白ゝ白ふ一筆度　蓼太

鶯　貝

初鶯や移とあまとそろふ俱ばさゝ　蓊光斎　天府

俗人探ふまゝ鶯あるかの　蓼太

梅汁あゝ氣のもゝ男ゆゝ　周竹

嵐尾

出こゝ迄沖の船かな

天府

かすみ井

和清

見あくるや不二八吉野桜の様

太乙館

不騫

十五日晴　元日　夢太

高人の夜ゝ寒風可

嵐亭

季冬

鶺鴒の

色紙蹄の

ひゝ爪の跡

不騫

雪の節

白日庵

菊貫

如是色に和光の彩や初鶯

田畑よりのしやくとはし渉降　夢太

糸柳まだ殘り雪かゝる柳　文毋

春與

[illegible] 菊賀

歳歳や粥炊きまゝに松の風　仝

歳首

[illegible] 鳳凰館　尚山

梅の[illegible]　蓼太

南天笑へ[illegible]　大扁

霧月

張の奥解き

去年壹子の

一夢の邨　　尚山

緑天

箒彼方つく志ゝ乎ゝ　松賀重

世ゝ乎ゝ水の落ゝ乎ゝ川　寒菊堂　蘇心

粕の慈ゝ乎ゝ産ゝ乎ゝ嬉ゝ乎ゝ　藝太

魚文

大呂

あるかなきかの
年ふるかの
もゝ千鳥

波女

佳気

山もまゝ雪にて奥あれ
玉栖系図の冨士沼連縄

先繁楼
千慮

孫子孫と雪の白妙

蓼太

宜麦

除歳

一月九日

味ふ春や

除夜の梅　千慮

上陽　雪羽人

物芳の物寂屋にまゝ〜昆の春　丹頂

引ずるゝ〜裳裾升出宋し　蓼太

初参入の新年の衣為て　阿人

霜蟾

ふるかへる

ふるかへるみち

丹頂

春興

暖き雪の宮あり藪の梅　延翠堂　大方

夢幾代の嘉祝菅門　夢太

後撰ふる奇部名歌取　完来

春遊

鳥信斎 苑枝

賢人を色に出かつ梅の花

梅の咲笠を着て旅寝哉　蓼太

風光る山道家に札入る　文来

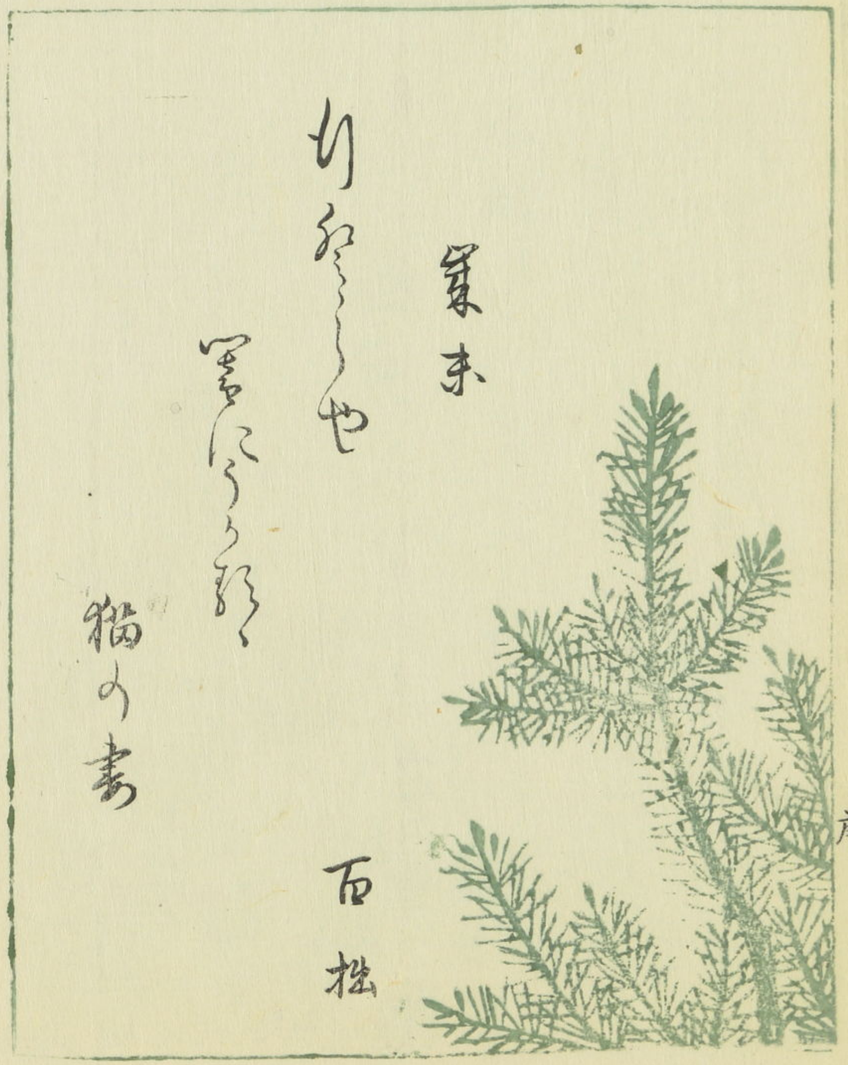
歳末

菊壽園 百拙

小浪に雪の喜ぶる初日哉

浦ハ緑下葉赤月　蓼太

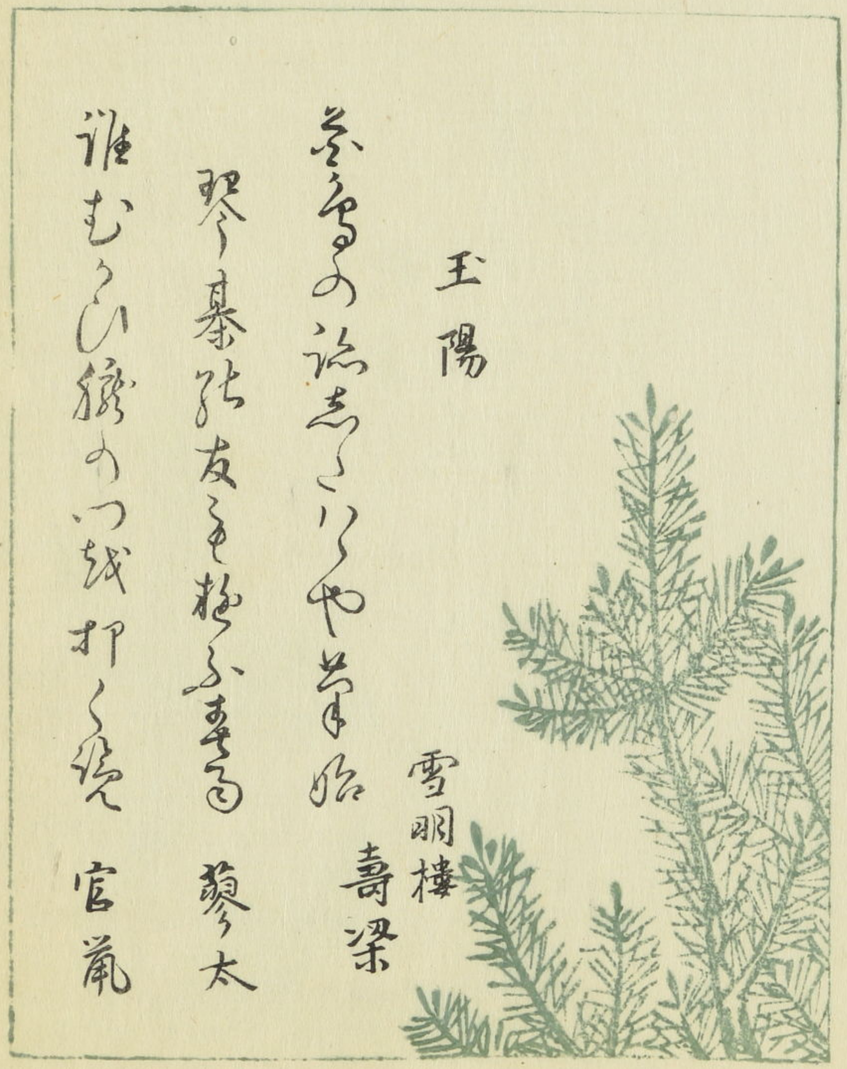
大井よりなるれゆやうん　石髪



篆書

百樹

猫の書



玉陽

雪明樓 壽梁

琴書の詩を作りて

琴棊弦友を楽ぶ幸福 夢太

誰むかひ猶の詩を打ち焼 官嵐

晩年

幕月を

清き郭也

美升蘭

壽梁

青帝

みとりの子の立ちのぼり初

雪扇窓

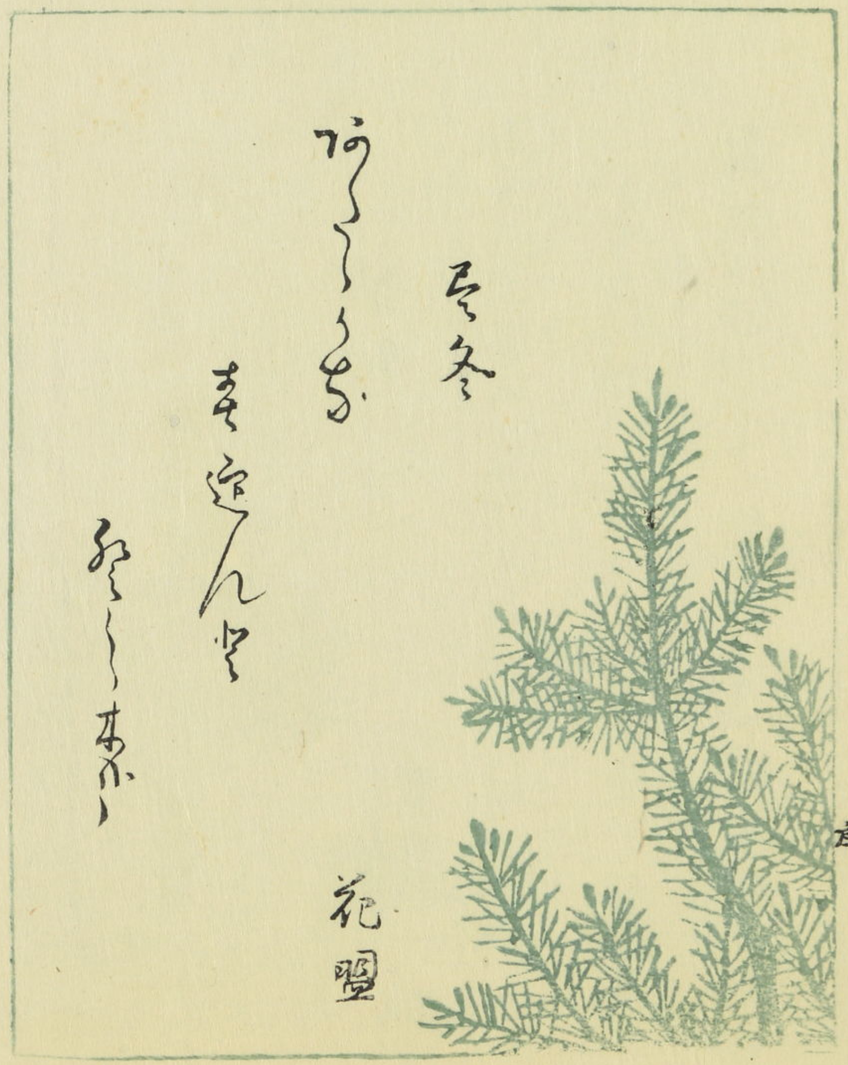
花盟

蓼孤旭にむかふ寺郭

蓼太

飯粥にいつくしの筋のはをさ孔く

官嵐



花壓

鳳曆

大下馬[illegible]

搆鹿樓

雪凡

清こ夢[illegible]

松蔭　蘭太

鶴走松[illegible]

月巢

春興

歩行ゝ動きて去の日ゝ　蓼江

歳暮

色の美旭ゝ　おい市ゝ　全

彩霞

初磨元ゝ　雪觀樓　此樂

まゝ八一対丁　東孝窓　蓼太

さゝ小ゝて和毛波ゝ帆の尺ゝて　完来

賀月

千里伊く

日孫殿

宮の書

北樂

書陽

千秋館

大扁

參議家町の百戸や時雨寺

名札吹うむ京屋の初霜　蓼太

白足袋の泥跳ねて　青雨

梅探る堤の東北　四極

[illegible]の声　大扇

茶湯

[illegible]のなかの[illegible]春九月　成義

[illegible]波八[illegible]してとむく[illegible]　竺蘭

[illegible]井の[illegible]　蓬[illegible]

帆[illegible]つる[illegible]はもなくしかう船　旭峯

[illegible]なりて[illegible]おしうてもく　楮徳

若水やうら水につく鶴の声　四明

[illegible]やゆき市の[illegible]　、

[illegible]や松に和合の図两　麦園

泊瀬寺て神まつ除夜の法燈ゝ　客雨
蓮華や寒燈共婦も嶋ゝ
梅さくやけふ丹生をみるようり　、
いさきよしきる少餅の十百家　芬路
雪やあるるのみ田る志瓶片帆　、
糸によふ柳海ゝ雪し忘　南條
泊瀬徳やあの影のあまり秋屋子醤　、
かすくとあ寒し年の雲　北枝
白くたあ花も松のまつのゆ

為水やくあ小年秋新まつ　沾古
神ン餅やつもも清ゝに水の恩　、
之稼にふ茶の降てや松の春　七樓
ひとりつく人の硬ゝなる郭　、
水解て京ゝ源し奥ゝ水　魚水
除夜の繁まれ白ふ秋後之　、
茶筌やあ茶ゝ降の之河人　群人
茶茶ゝや瀧くゝ瀧の月　菊也
臺中之清の志紙やあ秋市　、

奥聲改

戸もさして薮のとりし法住の去　白花
ちまきや魂に嵐の身用意　、
家々も筆拾ふの夜川ばかり　朧亟
味噌つくる徇乳や杜氏の宿かな　、

春興歳暮

雲に虹の外へる影や里神楽　素丸
掛乞の話わりしふ川田山　宗瑞
身ともに年取り合の賑や夜の雨　野逸
縁ともなりぬ師走も朽ちける　梅人

春ならぬ桐をつまむや年の坂　柳门
つとまとく身ぬに雪の初さらへ　我泉
貞徳の棺紬かうんしゝ忘　宗守
餅搗や凡哉いとハぬ我きくる　徳布
つゝましや筆にかくしも年の跡　逸窓
まな板に汁のきまりや大三十日　墨二
風呂敷ですその女や嫁ならひ　鳥林
餅搗の目鏡寄しる柳かな　灌河
神道に除夜も晦日か独の月　百滝

梅や多の赤つむ赤のい絵　扁溪
咲や西巴武やの立おくと　太初

仝

あまりみる砂の名や名の雲　虚舟
湖の名、弦あまつる嶋一樋　三駱
咲やひんとちすふ弘絵　沙羅
黄色やのとくき法宝ぬ寺　普成
おそむきの琴絃佛や門柳　支水
多の市雑に咲くの古院　完来

他邦之部

黄色や扇かくやく恋しく　下サ行内　波江
祥の常とくきあてそし男　今小石川　夢奴
ほの燥ふて小壁もの宮　、
多柳や神代の板敷荒　別　今下西　鷺肆
咲ふの砂くしくもしの市　、
四ふくく美の笑ふりのの素　今　懐湖
裏板にひくくくく鬼やひ　、
梅ふ多や流ふつきあの上　勢州津　理玉

宗經の古こと絵おもひそ
上こしの寒こ
笛吹ハ廉も寒〳〵　鈴月　、　水戸　美玲
芒穂まゆや鳴出て細雨　、
水あさき田中の月寒き　ヒタチト鈴　石菖

○

かすむ日ぞ絵ちくもいこん松の表　青羽蔵　孤月
泥洗ひ茶ぶこ洗ひて除夜の梅　、
旭さし梅の末枝やそ川　相州梅沢　智邑
松こよ撫よけふ雪おしいこん　、

燈ちきに月日の嵐きり星　、
い松小人伯ちこ絵赤の百ド　鼎峨
切年やそ車乙つ敷きち　、

春興

営に絵ちをし　細絵人　洛陽　蕁村
敬山や小松ち中絵赤絵水　今　几董
夕霞敬の山ちこ赤ち　峨峨　蝶梦
赤ち山や小絵く　の梅切ち　下係　童厚
赤ちこに絵若ハ絵ちて切ち　玩酔

松ノ枝や白に移てそ餅の影　房州　百明

色の戸や清制に蓋て餅の書　仝　星丸

年玉繻や清くハ汲て活ちん　仝　逸雅

春興　嚴尾

魚に乗せて色や清ぬるん梅花　浪花　妙子

岩戸やニ月ひらくさくら町　岩隆　翠兄

樟さそよ迎そ柳弦あること　紘示　春江

蛛しらめ色れ弁に色ぬ　上総　石意

雪ノ日弦そつてかくれ色の書　駿府　歌白

大尾

ちさらあじ流み流ふ色し忘　周竹

一歩も弦軸際かすむ入口の茶　月巣

色弦白色のたくさん弦樟茶要　魚文

煙くもや琉球の蓼ちち掃　青雨

炭仙て色めくくる色ん　文来

鶴と傳くあ里年の千松篠　官嵐

大くしや今明るんてくくく山　石鬢

歩にあてふ一歩も年のお小　嵐亭

小眼下陽きの月孤光小　阿人

ふに出てし人孤笑うたもの音　亘麦

世の中八下戸の繪し餅孤書　文毋

嵐雪忌歌誠　三月十三日弱四竹町
於常檢寺

芭蕉翁喫茶會　四月八日除川六百坪
於要津寺

丑ゐ月ゝ朝四時ヨリ此集諸子来

極月廿八日夕暮小雪しらしらと降加之入